

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

16

(開始ページ / Start Page)

120

(終了ページ / End Page)

120

(発行年 / Year)

1966-11-26

編集後記

▼創立四十周年を迎えるにあたって法政大学国文学会が企画した行事の、一つの柱は11月26日の講演会・祝賀会であり、他の柱が日本文学誌要の特集であった。26日の行事はすでに万端の準備を整え、案内状も会報(13号)とともに各方面に発送済みである。誌要の特集号もまた、26日までに発行することができるところはこびになった。喜びにたえない。

▼今回の記念特集号の編集にあたっては、従前に越えた広い範囲の会員に呼びかけて力作を募った。その結果、予想以上の論文が寄せられ、前号までは原稿の不足を嘆いていたのに、今回はどれを割愛するかで悩み、何編かは次号廻しにせざるを得なかった。

▼記念号にふさわしい内容をと願って、各先生をわずらわしてきびしく審査したため、内容の再検討を要望してお返しする結果になった論文も少なくない。せっかくの力作を返送する失礼をあえてするのは、編集者として最もつらい仕事であり、足らぬ原稿を急いで自分の論文で埋める苦勞の方がまだしもましである。誌要の質を保ち高めるための、やむを得ざる失礼としてお許しをいただきたい。

▼執筆者の過半は、戦後に大学院を卒業した

新進気鋭である。この事實は、法政大学国文学会が古い歴史に安住せず、常に前進し発展していることの象徴と言えよう。40年の歴史も不断の進歩に裏づけられてこそ生命を保つはず。その進歩のパロメーターである日本文学誌要の充実に、今後とも会員諸兄姉の御協力をお願いしたい。

▼記念特集号は論文を主体とし、回想的記事は会報に譲るのが当初の方針であった。

歴史を顧みる唯一の記事である「国文学会小史」は編集委員の島本昌一氏をわずらわしたが、同氏の努力により、国文学会の当初からの機関紙のほとんどが集められ、戦前の分の全目録を掲載し得たことは、大きな収穫であった。氏の労に感謝したい。

▼本号は二号分に近い増大号であるが、昨年来の年三冊発行の方針に変わりはなく、17号は二月中に発行の予定である。本年度に実質四冊分を発行することによって、明年度からの季刊移行が可能か否かを確かめたいというのが編集者の狙いでもあるが季刊移行には寄稿の増加が絶対必要であり、卒業生会員の会費値上げを伴う公算も大きい。各位の御意見をお聞かせいただきたい。

(表章)

投稿規定

- 一、宛先は法政大学国文学会
- 一、枚数に特に制限は設けません。なるべく、30枚前後、40枚以内。
- 一、内容は、日本文学・国語学・国語教育に関するもの、但し採否は編集委員会が決定します。
- 一、論文掲載の場合は抜刷三〇部を贈呈します。余分に御入用の方はお申下下さい。但しその分は実費を頂きます。

一九六六年二月二六日発行

日本文学誌要 第一六号

編集者 法政大学国文学会

印刷者 東京都中央区銀座東三ノ七

東銀座印刷出版株式会社
電話東銀座(542)三九四一

発行所 東京都千代田区富士見町

法政大学大学院内

法政大学国文学会

電話東京(262)二三五一番
振替東京 六九四三番